令和３年度 文化庁日本語教育大会シンポジウム

Can doベースのカリキュラム作成（生活）
～SIC訪問日本語コースの事例～

仙田 武司（公益財団法人しまね国際センター）
senda_takeshi@sic-info.org

数字で見る

島根県の状況

外国人住民の割合

約 1.3%

島根県の総人口672,979人のうち
外国人住民8,917人の占める割合
（令和3年1月1日現在住民基本台帳人口）

日本語を学びたい人の割合

72.8%

日本語を勉強していない人のうち、
「勉強したい」「機会があれば
勉強したい」と答えた人の割合
（令和元年度島根県外国人住民実態調査）

地域日本語教室の数

20教室

ピーク時（平成18年）から5教室減少
（ボランティアの高齢化、新規ボラン
ティアの定着難、支援格差等が課題）

日本語ボランティアの割合

95.1%

島根県の一般の施設・団体における
日本語教師等の数（305人）のうち、
ボランティア（290人）の占める割合
（令和元年度国内の日本語教育の概要）

地域日本語空白地域

8/19市町村

空白地域の外国人住民数は426人
（外国人住民全体の4.7%）

島根県における
「生活者としての外国人」のための日本語教育の課題

課題1

教室への参加を阻む
地理的・時間的要因
の存在

課題2

地域日本語教室に
対する支援の格差

課題3

外国人住民の
地域社会からの孤立

SIC
訪問日本語コース開設
（平成30年度～）

特徴1

日本語を学びたい人が自分で時間と場所を選べる

※ 主な対象者として技能実習生、日本人の配偶者、日系ブラジル人を想定

特徴2

学習支援者（日本語パートナー）と一対一で学ぶ

※ 地域社会の住民同士の日本語コミュニケーションの場としてコースを設計
（90分×10回）

特徴3

ゴールは地域社会とのつながりをつくること

※ 日本語学習を通じて、外国人住民が社会的に孤立しないようにする

コース概要　→

平成30年度
SIC訪問日本語コース

カリキュラム開発の流れ

1. 場面と生活上の課題の検討
2. 参照するCan doの検討
3. 目標言語課題の検討
4. 評価課題と評価法の検討
5. 学習言語項目の検討
6. 学習（授業）計画の検討
7. 教材の流れの検討

［開発メンバー］　大学教員（監修）、多文化共生マネージャー、地域の日本語教育に携わる日本語教師、地域日本語教育コーディネーター

教材作成

①『いっしょに にほんご しまねけん』（平成30年）

【目的】

［日本語学習者］

1. 日本語パートナーと知り合い、関係を築くことができる。
2. 生活場面において、日本語を使って課題を遂行できる。
3. 交流場面において、日本語を使ってやりとりができる。
4. 自立学習のスキルや姿勢を身につける。

［日本語パートナー］

1. 日本語学習者と知り合い、関係を築くことができる。
2. 「やさしい日本語」を使ってやりとりができる。

②『となりで にほんご』（令和2年）

【目的】

［日本語学習者］

1. 日本語パートナーと知り合い、関係を築くことができる。
2. 交流場面において、日本語を使ってやりとりができる。

［日本語パートナー］

1. 日本語学習者と知り合い、関係を築くことができる。
2. 「やさしい日本語」を使ってやりとりができる。

島根県オリジナル日本語教材のご紹介　→

①『いっしょに にほんご しまねけん』（平成30年）

目次

第１課【挨拶など】おはようございます。いいてんきですね。
第２課【自己紹介、家族や友達の紹介など】
はじめまして。よろしくおねがいします。
第３課【出身地の紹介】どんなまちですか。
第４課【買い物、郵便局でのやり取り、商品表示など】トマトはありますか。
第５課【休日の過ごし方】やすみのひ、なにをしますか。
第６課【誘う、了解する、断るなど】いっしょにいきませんか。
第７課【避難指示、避難所での会話など】ひなんしてください！
第８課【病院でのやり取り】どうしましたか。
第９課【仕事の面接、遅刻連絡など】レストランではたらきたいです。
第10課【学校とのやり取り】やまだアリスのははです。

②『となりで にほんご』（令和2年）

目次

Lesson 1　にほんごのべんきょうをはじめましょう
Lesson 2　わたしのすきなこと
Lesson 3　わたしのしゅっしんち
Lesson 4　わたしのくにのゆうめいなりょうり
Lesson 5　まとめ①（Lesson 1 ～ 4 の復習）
Lesson 6　わたしのしょくせいかつ
Lesson 7　わたしのせいかつ
Lesson 8　わたしのきゅうじつ
Lesson 9　わたしのほしいもの、したいこと
Lesson 10　まとめ②（Lesson 6 ～ 9 の復習）

比較　①『いっしょに にほんご しまねけん』と ②『となりで にほんご』

①第５課　【休日の過ごし方】 やすみのひ、なにをしますか。	②Lesson 8　わたしのきゅうじつ
目標言語課題 a) 自分の好きな事や、休みの日の過ごし方、普段の生活について話したり、尋ねたりすることができる。（A2） b) 週末の予定や週末した事を話したり、尋ねたりすることができる。（A2）	**目標言語課題** a)休みの日にしたことについて話すことができる。（A1）
学習言語項目 • 「（読書）が好きです」 • 「よく（アニメを）見ます」 • 「（スーパー）で買います」 • 「（昨日）（勉強）しました」など	**学習言語項目** • 「（浜田）に行きました」 • 「（8月）に行きました」 • 「（うみ）で遊びました」など

成果と課題

成果

- 学習者と日本語パートナーがCan doを共有し、互いにその達成に向けて学習を進めることができた。
- 学習者が自分で理解度・課題達成度を確認することができた。
- 実生活上の具体的な課題の遂行をCan doとすることで、学びをすぐに実生活に活かすことができた。
- 相互理解や人間関係の構築という視点を取り入れたCan doとすることで、学習者とパートナーとの交流が深まった。

課題

- 一部の学習者にとっては普段の生活との関わりが少なく必要性が低い内容が含まれていた。
- 課題達成のために必要と考えた学習言語項目が多過ぎた、詳し過ぎたことがあった。

教室を
社会そのものへ

カリキュラムに
「相互理解」「人間関係の構築」
といった視点を取り入れる

▼

日本語を学ぶ場が「教室」から
「人と人が出会う社会」になる

▼

「共生社会の実現」につながる